



学校教育目標 家庭や湯川地域と連携し「豊かな心とたくましい体をもち、自ら学び自ら考え、よりよい生活を創り出していく子ども」を育て

# 湯川小だより

北九州市立湯川小学校  
発行者 校長 加来 和久

四つのこだわり（あいさつ・時間・そうじ・くつばこ整理）

平成29年11月20日 発行NO. 特別号

めざす子ども像 ○ 明るい心をもった子ども ○ 考えることを楽しむ子ども ○ 元気な体を作りだす子ども  
在籍児童 たんぽぽ11名 1年98名 2年80名 3年72名 4年87名 5年88名 6年86名 20学級522名

## 平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

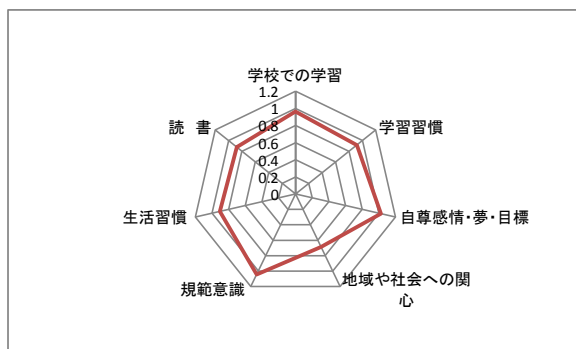
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	文の意味にあった漢字を書くことに課題がある。漢字だけの練習ではなく、その漢字を使った文を練習をする必要がある。また、手紙の構成を理解させることも必要である。	下回っている
国語B	チラシ等、目的や意図に応じて文章の構成を考えたり、必要な内容を整理して書く力に課題がある。相手意識や目的意識を明確にもって文章を書く習慣を付けていく必要がある。	やや下回っている
算数A	数量関係や図形の問題に課題がある。問題文を今までに学習したことを基に図や表等に自分で表して考える習慣を付けさせる必要がある。	下回っている
算数B	数学的な考え方に課題がある。自分の考えを、「まず」「次に」や問題のキーワード等を使い、日ごろの授業で、自分の考えを筋道立てて記述・発表することを積み重ねていく必要がある。	やや下回っている

### 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



#### 質問紙調査の結果分析

- ・学校のきまりを守っている児童の割合が高く、全国平均よりも上回っている。「湯川小4つのこだわり」を全教職員で取り組んでいる成果であると考えられる。
- ・授業で自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることが難しい児童の割合が全国平均より高い。
- ・本校の読書が好きな児童の割合は、昨年度と同程度であるが、全国平均が高くなっているため、全国との差が昨年度に比べ開いた。
- ・地域や社会への関心や地域の行事に参加している児童の割合が低かった。実際に地域やPTAの行事に参加している児童の割合は高く、児童の認識を高めていく必要がある。
- ・テレビや携帯でのゲーム時間が全国平均より長かった。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

○ 自分の考えを他の人に説明したり文章に書くことができるようにするために、自分の考えを書いたり児童同士の練り合ったりする時間を授業の中で確保する。また、自分の考えを、「まず」「次に」や問題のキーワード等を使い、日ごろの授業で、自分の考えを筋道立てて記述・発表することを積み重ねていく。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

○ 読書生活の定着・生活習慣の改善にむけて、学級懇談会や学校、学年通信等において、読書の意義やテレビ・ゲームの視聴時間の制限や「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さを訴えていく。同時に、学校においても、生活リズムの改善にむけて機会を見つけて指導を行う。